

行動単位型レッスン計画	標的スキル:	アイコンタクトする (PECS®)
学習者名:	指導者名:	日付:
行動目標: コミュニケーションパートナーの気を引きたい時、学習者はコミュニケーションパートナーへ近寄り、アイコンタクトをして、メッセージを伝える。		
機能的関連: 領域: コミュニケーション 機能:適切な注意引き、アイコンタクト、ソーシャル・スキル		
現在の指導状況: 習得 (試行/セット; 毎週取るデータ数): そのような機会を作って、または自発的な機会で一日4回 目標とする習得基準 (データのタイプを特定する: %, 頻度, 反応率, 持続時間など): 3人のスタッフ、全機会の内85%の機会ですべての試行でアイコンタクトできること		
現在の刺激制御: 全体身体プロンプトが必要		最終的な合図: コミュニケーションパートナーとメッセージ
行動単位型: はい [1セットごとの最大回数] 1試行/セット		行動連鎖型: いいえ 連鎖化させる? しません
1人 vs. 2人制プロンプト?: 2人必要: 身体プロンプター1人と応える相手が1人	プロンプト方略: 遅延プロンプト (プロンプトの階層、または遅延プロンプトで) 間を空ける間隔: 1秒ずつ漸進的遅延 (最高5秒まで)	
エラー修正: 手順に組み込まれている		
自然な強化子または付加的強化子 (課題終了後): 自然: 注目の獲得、1回に対しすぐに賞賛する		2次的強化子 (課題中): 賞賛 (「上手に注意を引けたね!」)
現在の2次的強化子の強化スケジュール: 1:1、賞賛		目標とする2次的強化子の強化スケジュール: 1:1 自然: コミュニケーションパートナーの注目のみ
般化 (刺激要素): [人々, 場所, 教材, 監督など] 様々なスタッフ、場所、教材や活動の中で行い、コミュニケーションパートナーを遠ざけていく		般化 (反応要素): [割合, 正確さ, 強度, 持続時間など.] 様々な要求に般化し (例: トイレの要求) に般化し、「すみません」と言って注意を引く
レッスンの詳細: 学習者が教材や、強化子、または手伝いを要求する機会をつくる。初めの指導では、(学習者が文カードを完成して手に持ったら) 0秒遅延ですぐに学習者をコミュニケーション・パートナーへ完全身体プロンプトし、コミュニケーションパートナーの顔に手を当てて、アイコンタクトが成立するまで自分の顔の方に優しく向けさせる (動かす)。学習者がプロンプトに打ち勝つまで時間遅延を1秒ずつ徐々に伸ばしていく。		

データ収集

日付	指導者名	コミュニケーション・パートナー	時間遅延	時間遅延に打ち勝った?	コミュニケーション・パートナーとの距離	コメント

正誤反応	100	90	80	70	60	50	40	30	20	10	日付	プロンプトレベル
正反応: +												FP: 全体身体プロンプト
誤反応: -												PP: 部分身体プロンプト
反応なし: NR												M: 見本
												G: 身振りプロンプト
												PV: 部分的言語プロンプト
												FV: 全体的言語プロンプト